

あいち病害虫情報 最新情報

平成28年9月13日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

作物の害虫

予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺量は、平年並の状況です。このため、普通期栽培水稻、ダイズでの発生量は、平年並と予測します。

ダイズのミナミアオカメムシの発生量は、ほ場間でばらつきがあるので、ほ場を見回って発生状況の把握に努め、発生ほ場では開花30日後を目安に防除しましょう。

トビイロウンカが8月下旬の巡回調査で確認されました。本虫が多発生すると坪枯れ等の被害が発生する可能性があります。ほ場をよく観察し、今後の発生に注意して下さい。

落葉果樹の病害虫

モモせん孔細菌病は枝や落葉痕部の組織内で越冬した病原細菌が、次作の発生源になります。枝病斑は伝染源となりますので、見つけ次第除去するとともに、秋季防除を徹底しましょう。詳細は、9月2日発表の「モモせん孔細菌病の秋季防除情報」を参考にしてください。

ナシ黒星病やうどんこ病が発生しているほ場では、次作の伝染減を減らすため、9月2日発表の「ナシにおける病害の秋季防除情報」を参考にしながら、秋季防除を実施しましょう。近隣に収穫を控えているほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、飛散防止に努めるとともに、収穫前日数に注意しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ及び予察灯における誘殺数は、平年並か、やや少ない状況です。今後、台風等の通過によりスギ・ヒノキ林の近くの果樹園に一時的に多く飛来する可能性があるため、ほ場内をよく観察しましょう。

ナシヒメシンクイは豊田市のモモほ場及び西尾市のナシほ場に設置したフェロモントラップでは、平年より多く誘殺されています。秋期はナシほ場への成虫の飛来が続くことがあるため、発生が多いほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。

シロイチモジヨトウの発生に注意！

キャベツでは、シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数とほ場における発生量がともに多い状況です。ほ場での発生に注意し、防除を徹底しましょう。

ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、豊橋市及び稲沢市では8月から多い状況が続いています。早期発見に努め、防除を徹底しましょう。ダイズでは、白変葉を確認したら、速やかに防除しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、豊川市のキクほ場と豊橋市のキャベツほ場に設置したトラップではやや多くなっています。キャベツでは結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、生長点付近や花蕾が食害されるので、早期防除に努めましょう。防除については、9月2日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参考にしてください。

コナガは、フェロモントラップにおける誘殺数とキャベツほ場での発生量はともに平年並です。しかし、豊橋市のキャベツほ場に設置したフェロモントラップでは7月にピーク

があった後、少ないながら継続して誘殺されているので、ほ場の観察に努め、早期防除に努めましょう。

キャベツほ場でのハイマダラノメイガの発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、一部地域では発生が多いほ場があります。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期防除に努めましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害

名古屋地方气象台9月8日発表の1か月予報によると降水量は多い見込みで、黒腐病、軟腐病などの細菌性病害は降水量が多いと発生量が増加します。特に、台風などで被害を受け傷ができると発生しやすく、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害ともに、気温が高いと発生が助長されます。また、炭疽病は台風などの風雨で発生が増加します。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにするとともに、本ぼで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病

トマト、ミニトマトでは、コナジラミ類の発生が多いほ場があります。黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミを防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820